

平成30年1月22日

岐阜県嚥下障害研究会・朝日大学附属病院摂食嚥下障害研究会 共催

平成30年度 第1回研修会（成人・高齢者領域 通算54回）のご案内

岐阜県嚥下障害研究会
会長 豊島 義哉

麗春の候、皆様にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年の第23回日本摂食嚥下リハ学会での教育講演で小山珠美先生の「食べるをサポートするための包括的スキル」を拝聴しました。講演の中で「食べることは命の根幹そのものなんです。だからこそ、そこにこだわってやっていきたいという思いが原動力になっています。」という言葉聞き、患者さんへの思い、摂食嚥下に対しての強い信念を感じました。是非、当研究会にお招きし、この思いと根拠に基づいたサポートを皆さんに学んで欲しく早々に連絡しましたら、講演を快諾くださいました。つきましては、下記の通り、研修会を計画しましたので、ご参加くださいますようご案内いたします。

講演は相互演習を含め、1. 小山先生の患者さんへの強い思い、2. 具体的な事例を通してバランスチャートの活用方法についてお願いしました。業務多忙とは存じますがご参加下さいますようご案内申し上げます。

記

日時：平成30年4月14日（土） 13:30～15:30（13:00から受付）

場所：朝日大学 1号館3階 第4大講義室（予定）
岐阜県瑞穂市穂積1851-1

演題：「食べるをサポートするための包括的スキル」

小山珠美先生（NPO法人 口から食べる幸せを守る会 理事長
JA 神奈川県厚生連 伊勢原協同病院 摂食機能療法室 看護師）

・・・平成28年5月16日NHKのプロフェッショナル仕事の流儀に出演・・・

内容一部紹介：食べることで、全身状態が整っていく。脳卒中や肺炎にかかったことをきっかけに医師から「食べることをあきらめないように」と指示される高齢者は少なくない。そうした「摂食えん下障害」を抱える人たちの食べる力を回復させるエキスパートが看護師・小山珠美だ。これまで小山が担当した患者およそ2千人のうち9割が再び食べることができるようになった。これまで小山は食べることを通じて見違えるように元気になっていく人を数多く見てきた。口からの食事

は、視覚・嗅覚・味覚を刺激し、脳の働きを活性化する。また、唾液の分泌が促されると、そこに含まれる酵素や抗体が感染予防や免疫力向上の働きをする。そして何より、食べることは生きる喜びへとつながっていく。だからこそ小山は、口から食べることにこだわってきた。

<http://www.nhk.or.jp/professional/2016/0516/>より引用

著書紹介 ・口から食べる幸せをサポートする包括的スキル第2版 KTバランスチャートの活用と支援
・口から食べる幸せを守る－生きることは食べる喜び など

定員 : 150名

参加費 : 会員・朝日大学関係者・学生 無料 非会員 1,000円 (当日徴収)

申し込み: 相互演習を行いますので、準備の関係上、事前申し込みをお願いします。

申し込み先: 〒505-0301 岐阜県加茂郡八百津町八百津 1286-7

岐阜県嚥下障害研究会 第1回研修会係

FAX (0574) 43-1320

メール gifukenengesyougaiikenkyukai@yahoo.co.jp

.....
平成30年 月 日

岐阜県嚥下障害研究会・朝日大学附属病院摂食嚥下障害研究会 共催

平成30年度 第1回研修会 (成人・高齢者領域 通算54回) 参加申込書

1. 氏名: _____ 職種: _____

勤務先: _____

研究会員、 朝日大学関係者、 非会員

※会員の方は、個人宛の案内のラベルに会員番号を記載しています

2. 連絡先: (自宅・職場)

住所: 〒 _____

電話: _____ FAX: _____